第三回目には、重に仕上げて、柔らめる事と、似せることとが目的である、畫用人形は六吋から等身位までの數種が入用である、普通は二十四吋から三十六吋位の獨逸製の品が便利である。

モデルの位置

肖像を畫き始むるに先ちて、多方面から被畫者の顔を見て、最恰好良く特徴を表はせる位置を定めるのが大切である、眞正面から見たのが良い事もあるが、四分の三の横向きの姿勢が多く採用される、之は充分とはいかないが、兎に角顔の側面と全面とを見ることが出來るからである。

この四分の三の横向きを畫くとしても、被畫者の顔面が最も良く見える爲めに、左向とか、右向とかを擇び定むる注意を忘れてはならぬ、又其外に、鼻の蔭の具合を注意せぬはならない、全くの横向きの顔は、特徴があつて面白いけれど、肖像畫としては多く採用されない、身體に對して頭をどんな風に置くべきかも考慮を要する、頭が一方に、體が他の一方に向つて居る姿は面白い型である、體も頭も同一方向に向いてゐるは態度餘りに簡單である、此等の諸點は、男女の別、年齡の相異、被畫者の性格等に應じて、畫家の考ふべき事であつて、一定することは出來ないのである。

肖像に手や腕を添えることは、繪の美しさを增すものであるが、其の添へ振が趣が無くてはいけない、それに初心の人はラフアエルが爲した樣に、被畫者の兩手を畫くが宜しい、左樣すれば、片方の手は如何したのであらうなどとの疑問が起ることは無い。

明治洋畫界に貢献淺からざりし故原田直次郎先生十週年紀念會を、本月二十八日上野精養軒に開き、同時に遺作五十餘點を、東京美術學校にて展覽に供する筈なり、別に右遺作の寫眞及傳記逸事等を集めて、紀念帖を發行すべく、會員たらんこと希望の諸君は、神田東松下町十六小柴氏方へ申込まれたし。